

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

前期

科目No.	101	科目名	化学物質総合評価学概論1		サブネーム	化学物質リスク評価の基礎1		
連携機関名	化学物質評価研究機構	レベル	基礎～中級		講義枠	土曜日	講義時間	14:00～15:30, 15:50～17:20
科目概要	化学物質及び化学物質を含む製品について、その生産、輸送、利用及び廃棄に至るまでの過程におけるリスク評価手法の全般を理解することを目的とし、化学物質の環境中挙動を知るための試験手法の概要を紹介するとともに、環境中生物に対する化学物質の有害性を確認するための手法の概要を解説する。 (化学物質総合評価学概論2へ続く)							

サブタイトル	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属	
はじめに	1 はじめに	講義目的、講義概要、評価方法、学習の補助資料などに関するガイダンスを行う。化学物質の総合評価の必要性及びその国際的動向について解説する。	4月15日	共通講義棟 1号館 204教室	高月峰夫	化学物質評価研究機構	
リスク評価の概要	2 リスク評価の基礎(1)	リスク評価書の実例を紹介し、暴露評価を実施する手順の概要について解説する。	4月15日		石井聡子		国立医薬品食品衛生研究所
	3 リスク評価の基礎(2)	リスク評価書の実例を紹介し、環境中生物に対する有害性評価およびリスク評価を実施する手順の概要について解説する。	4月22日				
	4 リスク評価の基礎(3)	リスク評価書の実例を紹介し、ヒトの健康に対する有害性評価およびリスク評価を実施する手順の概要について解説する。	4月22日				
リスク評価の概要	5 ダイオキシンのリスク評価	ダイオキシンを例にリスク評価の現状を紹介する。	5月13日		広瀬 明彦		
暴露評価	6 化学物質の環境残留性	化学物質審査規制法における生分解性の位置づけ及び生分解性試験法の概要を紹介する。	5月13日		共通講義棟 3号館 103教室	高月峰夫	
	7 化学物質の生物濃縮性	化学物質審査規制法における生物濃縮性の位置づけを解説するとともに、食物連鎖における生物濃縮性の位置づけを説明する。また、濃縮度試験法の概略を説明するとともに、生物濃縮性を予測するための構造活性相関手法について解説する。	5月20日				
	8 化学物質の環境中分布予測(1)	化学物質の環境中における挙動を支配する要因を説明するとともに、環境分布予測のモデルについて概要を解説する。	5月20日				
	9 化学物質の環境中分布予測(2)	環境分布予測のモデルを用いて、実際の予測方法を解説する。	5月27日				
環境中生物への影響評価	10 水生生物に対する毒性試験(1)	藻類、甲殻類、魚類を用いた毒性試験の概要を解説する。	5月27日				
	11 水生生物に対する毒性試験(2)	試験結果の分類法に関する国際的動向について解説する。	6月3日				
	12 陸生生物に対する毒性試験	陸生生物を用いた毒性試験方法の概要を説明するとともに、リスク評価における位置づけを解説する。	6月3日				
13 構造活性相関の利用	構造活性相関手法の原理を説明し、生態影響評価における構造活性相関手法の利用例を解説する。また、構造活性相関手法の利用に関する国際的動向を解説する。	6月10日	共通講義棟 1号館 204教室				
14 室内試験結果から生態影響への外挿	生態系とは何か、また、生態系への影響とは何かを説明し、初期段階で行われる生態毒性評価の方法である室内試験についての概要を説明する。さらに、個体を用いた試験結果から生態系の影響を外挿する場合の問題点について解説する。	6月10日					
15 内分泌かく乱作用が疑われる物質についての試験	化学物質の内分泌かく乱作用についての概要を説明し、環境中生物に対する内分泌かく乱物質作用の試験法開発状況について解説する。	6月17日					